



犬のノミダニ対策の薬はどれくらいの期間必要？

駆除薬の必要性と投与・効果の時期について

犬にノミダニが寄生しないように、駆除を考えておくことは非常に重要です。今回は、犬のノミダニ対策の薬は、具体的にどれくらいの期間の投与が必要となるのか、駆除薬の必要性や、投与後の効果の持続する時期について、ご紹介してまいります。



犬に寄生するノミダニの代表的な種類とは

犬に寄生するノミダニの代表的な種類として挙げられるのが、ネコノミとマダニです。ここでは、どのような生態で、どの期間に繁殖が行われるのかをお伝えします。

・ネコノミ

犬に寄生するノミは、日本では約 80 種類が存在するとされていますが、犬に関わるノミは、そのほとんどがネコノミだと言われています。

ネコノミが繁殖する期間は、主に春から秋にかけて盛んになります。

暖かい室内であればこの限りではなく、冬でも繁殖する危険性が高いです

・マダニ

マダニは、春から夏にかけては成ダニが活発に活動して繁殖します。一方、秋から冬には、卵から孵化した幼ダニ・若ダニが活動を始めるため、通年で気をつける必要があります。

ネコノミと同様に、マダニも凄まじい繁殖スピードを持っているため、犬が寄生されていることがわかった場合は早期の対策が必須です。

犬に寄生するノミダニで発症する可能性のある病気

犬に寄生するノミダニは、痒みの症状を発症させる以外に、様々な病気をもたらす危険性があるため、発見した場合は放置せず、早期に治療が必要となります。

・ネコノミに感染した場合に発症する可能性のある病気

犬がネコノミに感染すると、激しい痒みが出るほか、貧血、ノミアレルギー性皮膚炎、瓜実条虫(サナダムシ)による条虫症などを発症する恐れがあり、重篤な症状に発展する可能性もあるため、注意しなければなりません。

・マダニに感染した場合に発症する可能性のある病気

犬がマダニに感染すると、痒みをもたらすほか、貧血、アレルギー性皮膚炎、ダニ麻痺症、栄養障害などの病害を引き起こす恐れがあります。その他、バベシア症、日本紅斑熱、ライム病、Q 熱、エールリヒア症などのマダニを媒介とする病気を併発する危険もあるため、注意してください。

犬のノミダニ駆除薬を投与する期間

犬のノミダニ予防薬を投与する期間は、春から秋にかけて、毎月 1 回程度を目安に投与を実施するのがベストです。

温度と湿度が上がる 5～10 月あたりは、しっかりと駆除対策をする必要があると言えるでしょう。

駆除薬の種類

犬のノミダニ対策の駆除薬には、経口のチュアブルタイプと滴下するスポットタイプの2種類があります。

・経口のチュアブルタイプ

食べ物のように経口で与えるチュアブルタイプのノミダニ駆除薬は、嗜好性が高く、おやつ感覚で美味しく犬に食べてもらえるように工夫がされています。

ただし、チュアブルタイプはアレルギー体質の犬には与えられない場合があるため、事前に犬のアレルギー気質を獣医師にチェックしてもらう必要があります。

・滴下するスポットタイプ

薬剤を皮膚表面に滴下することでノミダニ駆除の効果が期待できるスポットタイプの薬剤もあります。スポットタイプの場合、犬の首のあたりに薬剤を垂らすだけで簡単に投与することができるため、とても手軽です。

犬のノミダニ駆除薬の効果が持続する期間

犬のノミダニ駆除薬の効果が持続する期間は、一般的には1ヶ月程度となります。ただし、薬剤によっては、3ヶ月効果が持続するタイプもあるので、毎月1回の動物病院への通院が負担となる場合などは、うまく活用すると良いでしょう。

犬にノミダニが寄生している場合は、早めに動物病院で獣医師の診断を受けるようにしましょう

動物病院で獣医師の診断を受けることで、ノミダニの具体的な対策方法を教えてもらったり、駆除・予防に効果のある薬を処方してもらったりすることができます。

また、動物病院で健康診断を受けることにより、ノミダニの寄生をチェックしてもらう以外にも、病気に罹患している可能性などを併せて診察してもらうことが可能です。

犬は、猫と比べると、外に散歩へ行く際にノミダニに感染されるリスクがあるため、完全室内飼いでない場合は、定期的に動物病院で診察を受け、駆除対策を万全にするようにしましょう。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →



MSD
Animal Health

JP-BRV-210300017